

## 歯科界の厳しい15年と今後の展望

日本歯科医師会会長 大久保満男先生



平成26年5月31日に、平成25年度福岡歯科大学同窓会総会特別講演会が大久保満男日歯会長により「歯科界の厳しい15年と今後の展望」という演題で開催された。

大久保会長は、「これまでの15年間歯科界

は厳しい道のりを歩いてきた。小泉政権の医療費抑制政策や日歯連盟事件などの中で、日歯は何を訴え、どのような道を開いてきたか。歯科医療は、国民皆保険で国策である。そのため、医療行為の価格を自由に決めることができない。社会保障制度は、国費も投入され国が国民の生活を平等に保障する仕組みである。つまり、どこに行っても同じ価格で医療が受けられるという大きなメリットがある。しかし、歯科界からすると経済状況や政策によって左右される大きな規制のもとにおかれている。この両者の狭間で、歯科の経営状況を安定するために、日歯は奮闘している。

平成18年度改定で歯科医療費はマイナス1.6%でかなりの打撃をうけた。財務省は、それでも医療費の削減



を試みようとしていた。これにより、歯科医療存続の危機となっていた。医療の機能の充実化のためには、医療費を確保しなければならない。日歯は政府に対し、これらを訴え提言してきた。

その中で、日歯が政府に提示した資料で注目されたものがあつた。それは、経済危機克服の為には健康な高齢者を増やすことである。高齢者は外出し消費者となること、80歳で20本ある人は外出する方が多いというデータがあつた。また、国民歯科会議を開きこれからの歯科医療は治すだけでなく、治し支える治療をしていくことが発案された。国民の健康を守るために、日歯は下記のような基本方針を打ち出した。

健康で安心な生活を営むための国家と国民の責務として、健康増進活動の充実に取り組み、また医療提供体制すなわち国民皆保険（公助、共助、自助の連携）を充実させる。歯科医療が、人々の日々の営みとしての生活をどのように支えるか。治す歯科医療から、治し支える医療へシフトしていかなければならない。日歯の存在意義は、会員が生涯を通してともに学び合う場であり、その場を守り続けることである」と述べられた。

大久保会長の熱弁に同窓会員の一同、聴き入るなか講演会は盛況のうち終了した。

広報理事 三箇正賢（18期）



## 教授就任のご挨拶



兵庫医科大学  
歯科口腔外科学講座  
教授 本田 公 亮 (5期)

こんにちは。福岡歯科大学5期卒業生の本田です。私は昭和58年に母校を卒業し、その後出身地の兵庫県西宮市にある兵庫医科大学歯科口腔外科学講座に入局しました。そしてこの度同講座の教授に就任しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は現在大学の方で「顎関節外来」と「顎顔面補綴外来」の2つの専門外来を持ち、それに関連した研究や教育にも従事しております。また月に一度、母校出身の関根浄治先生（11期）が教授をされている島根大学医学部歯科口腔外科学講座に嘱託講師として出向し、顎顔面補綴臨床の指導を行っています。ここには関根教授を筆頭に福歯大出身の先生方が多く在籍しておられ、一緒に仕事ができるのをいつも楽しみにしています。

また母校の方ではOBの尾崎先生、高橋先生、城戸先生、升井先生、広瀬先生、古賀先生らが教授としてご活躍されていることを拝聞し、大変嬉しく思っています。よく周りのOBの先生から「医科大学ってやっぱり白い巨塔があるの？」って聞かれます。「白い巨塔」はありませんが、医科大学特有の人事考課がなされ、歯科医師として、幹部教員としてのidentityを維持するのが大変です。

しかし最近、医学部、薬学部、理学療法学部、看護学部の4学部の学生が参加する本学の合同チュートリアルに、歯科関連の教育カリキュラムを加えようとする動きがみられます。

その理由は明確ではありませんが、医師国家試験に顎口腔領域の疾患に関する出題が増えてきたこと、そしてこれからは職種を問わないチーム医療が不可欠であり、まず教育の面から見直しを図りたいとする大学の意向からでしょうか。

母校が開学40周年を迎えられたとのこと。福岡歯科大学の益々のご発展を祈願するとともに、これからも優秀な人材を育てられ、その中から多くの母校出身の教育指導者が輩出されることに心より期待しています。どうか今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



「これからも地域で貢献」  
～65歳、前期高齢者の節目に思うこと～



医療法人あさくら会  
朝倉歯科医院/朝倉クリニック  
朝倉 勉 (2期)

昨年12月17日、私もこの日で65歳を迎え、前期高齢者となりました。誕生日のこの日に、大阪府健康医療部から「第42回大阪府医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛)に選ばれたとの知らせを受けました。この賞は地域医療の発展に長年にわたって貢献した医療関係者を表彰するもので、平成26年2月6日に読売新聞大阪本社へ赴きました。

今回の受賞者は4人で、大阪社会医療センター附属病院放射線室参与の串本孝示さん(61)、障害者福祉施設「四天王寺和らぎ苑」看護部長の大浦まち子さん(62)、いずみ会阪堺病院栄養科長の峠田昭子さん(71)でした。

医療功労賞は『日本の医療現場には、離島、山間、豪雪地帯など、自然条件との戦いを強いられる現場や、昼夜を問わず勤務が不可欠な心身障害者施設や各種専門医療施設、大規模災害による被災地など、今なお困難をともなう現場が数多く存在しています。』

本賞は、こうした厳しい状況の中で長年にわたり献身的な活動を続けている医療従事者を顕彰するものだそうです。

2月5日の読売新聞での記事は「朝倉歯科医院は茨木市を拠点に、1984年から、通院困難な患者さんの自宅や特養施設などへの訪問診療に取り組む。口腔内の手入れと感染症予防の関係は当時、医療関係者に浸透していなかったが、診療の合間や休日を使って訪問診療を続け、口腔内の細菌が原因で起こる誤嚥性肺炎を減らすことに貢献した。」

現在も障がい者らへの診療に力を入れる。「治療後に『快適で、ご飯もおいしくなった』と喜ぶ患者の声がうれしい。開業医に難しいとされる分野だが、これからも積極的に頑張りたい」と意欲をみせた」と取材し書いていただいたことは、受賞した私も感無量です。

この受賞を節目に、これからも高齢者や障がい者と健常者とは、互いが区別されることなく社会生活をもにするのが本来の姿だという考え方(ノーマライゼーション)を一層深め、私の取り組みを支えてくれるスタッフと共に一歩でもその理想に近づき、長年お世話になった茨木市で医療、介護、福祉のお役に立てればと思っております。

今回の受賞は私一人だけではなく、支えてくれたスタッフとともに戴いたものであり、これからも歯科医療を通して地域に貢献できればと心新にしております。



「平成26年2月7日 読売新聞記事」



「永年私を支えてくれているスタッフとの忘年会」

# 福岡歯科大学卒業後の女性歯科医師の現状 ～女性の私生活と仕事に関するアンケート～



成長発達歯学講座  
成育小児歯科学分野  
講師 馬場 篤子 (12期)

## 【目的】

福岡歯科大学は平成26年4月に開学41年目を迎え、卒業生を4,131名輩出しました。図1に同窓生の数を男女別に示しますが、卒業生のうち966名(約24%)を女性が占め、その増加率は男子学生よりも高くなっています。

また、厚生労働省の全国の届出歯科医師数は101,576人(平成25年12月17日現在)で、女性歯科医師数は20%を超えて<sup>1)</sup>、各大学の医局でも、20代から30代の女性歯科医師が多数在籍し、臨床・研究・教育の場で活躍しています。それにも関わらず、女性歯科医師は結婚・出産・育児・介護などで長く現役で活躍し続けることが難しい現実があります。

そこで女性歯科医師の現状を把握することを目的に、本学1期～36期の女性同窓生966名を対象にしたアンケートを実施し、回答の得られた181名の結果(回収率18.7%)を分析に用い検討を行ったので一部を報告します。

## 【結果】

回答者の年齢は、20歳代20%、30歳代37%、40歳代24%、50歳代19%、60歳代0%であり30歳代が最も多かった(図2)。

歯科医師を目指した理由(複数回答可)は、女性も資格が必要60%と最も多く、次いでやりがいがある47%、地域医療がしたい10%の順であった(図3)。

結婚後の仕事の継続について、できれば続けたい50%、絶対続けたい43%、出来ればやめたい5%、絶対やめたい2%であった(図4)。

仕事を続けている理由では、ライフワークだから28%、経済的な理由から24%、仕事が好きだから23%、開業しているから17%であった(図5)。

仕事をしながらの出産に関して不安はあるか、あるいはあったかは、あった

49%、ある34%、ない17%であった(図6)。

仕事をしながら出産することに関しての不安の内容は、職場での育児制度が整っていない51%、自由な時間が無い48%、キャリアへの影響35%、経済的負担29%であった(図7)。

女性歯科医師として仕事をする上の悩みについては家事と仕事の両立が難しい70%、勉強時間がない40%、プライベート時間がない36%、育児32%、男性主導社会と配偶者の協力不足がそれぞれ15%、職場の施設不備11%、家族の介護10%、セクハラ4%であった(図8)。

仕事を続ける上で、あったら良いと思う制度や仕組みについては、託児所・保育所の整備拡充などの子育て支援システム61%、職場復帰支援40%、交代制の勤務体制35%、フレックス制導入31%、事業所への補助金制度27%、ワークシェアリング23%、在宅研修制度21%であった(図9)。

女性が結婚・出産後も仕事を続けていくために必要な事は、夫や家族の協力39%、職場の支援38%、自分自身の意識13%、国の支援9%であった(図10)。

## 【まとめ】

女性歯科医師が現役で仕事を続けることが難しい現実があるなか、同窓会として現状を把握することを目的に、全国の本学同窓生女性歯科医師を対象に「女性の私生活と仕事に関するアンケート」を実施しました。その結果、結婚や出産後も仕事を続けたいと思っている会員がほとんどですが、職場環境も不十分であり、家事と仕事の両立に悩んでいることがわかりました。したがって、女性歯科医師が直面する課題を克服し、女性の活躍を同窓会の活性化につなげるためには、女性のライフステージごとの課題に対応した対策を展開するとともに、母校や歯科医師会などと協力して積極的な取組を促していくことが重要であると思われました。また、本学同窓会本部役員も女性歯科医師は7.5%であり、今後さらなる女性歯科医師の参画を期待します。

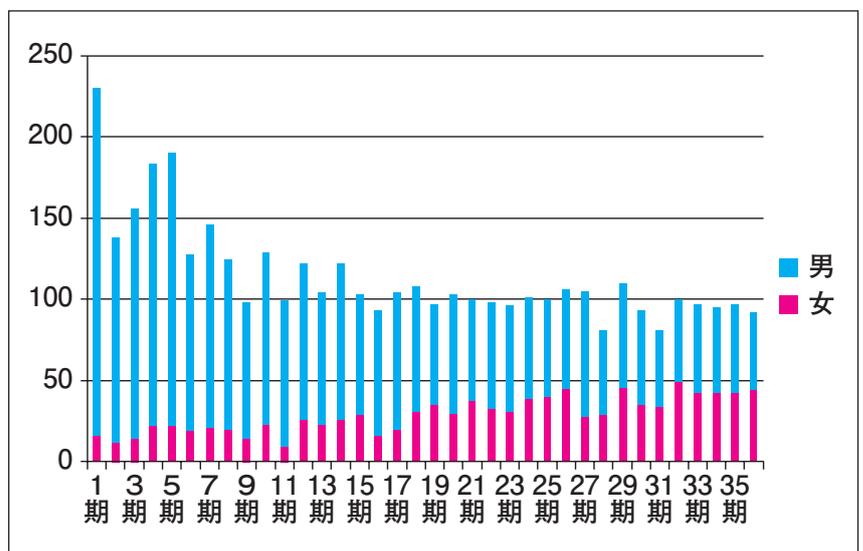


図1：本学同窓生数(期別)

本調査を実施するにあたり、ご協力頂いた全国の本学同窓生女性歯科医師の先生方に心より感謝申し上げますと共に、また、論文作成にあたり調査当初からご指導ご鞭撻を賜りました福岡学園水田祥代常務理事にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

(本文章は福岡歯科大学学会雑誌第42巻より抜粋。)

[参考文献]

厚生労働省大臣官房統計情報部：  
平成24年医師・歯科医師・薬剤師調査の概況  
厚生労働省ホームページ  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/12/dl/gaikyo.pdf>(最終アクセス日 2014.8.1)

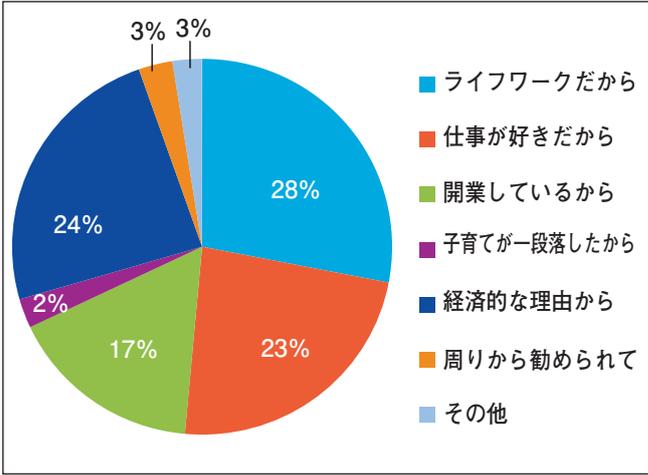


図5：仕事を続けている理由はなんですか

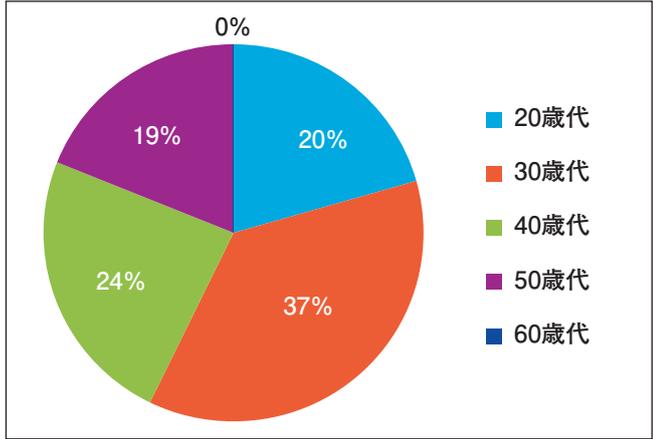


図2：回答者の年齢

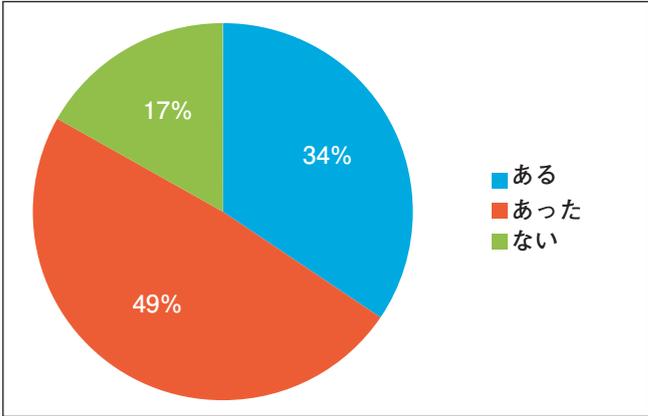


図6：仕事をしながらの出産に不安の有無

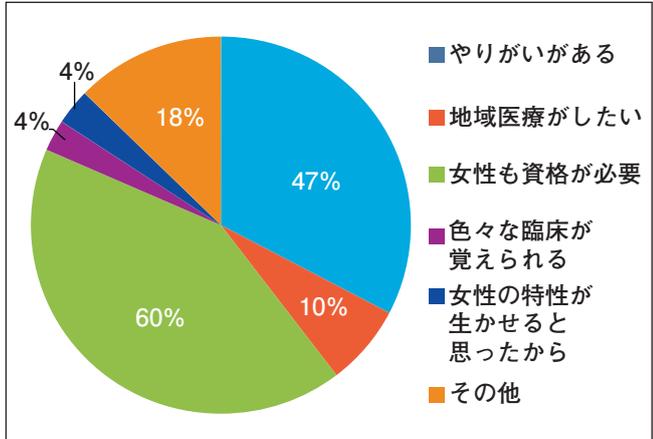


図3：歯科医師になった理由

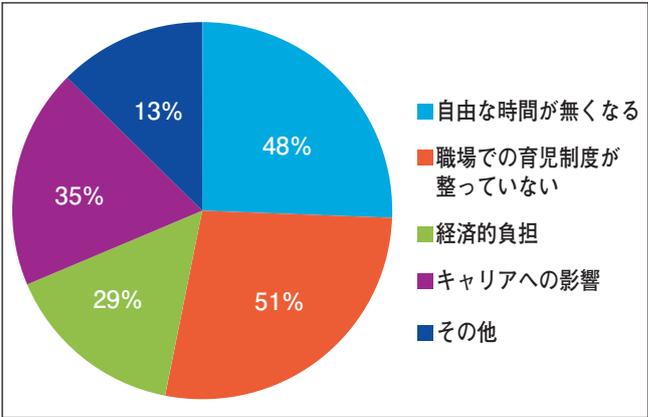


図7：仕事をしながら出産することに関しての不安はなにか

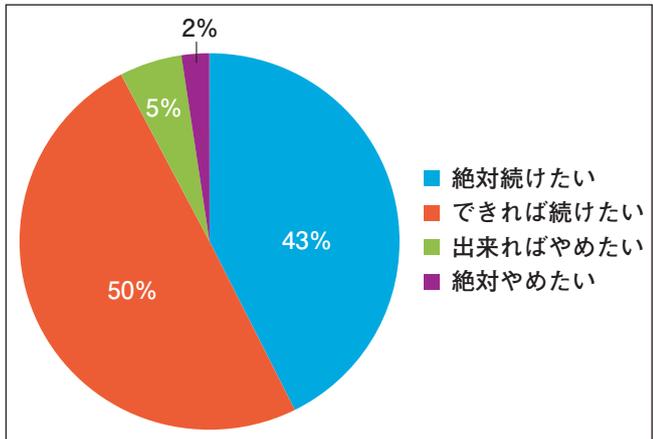


図4：結婚しても仕事を続けたい、続けていますか

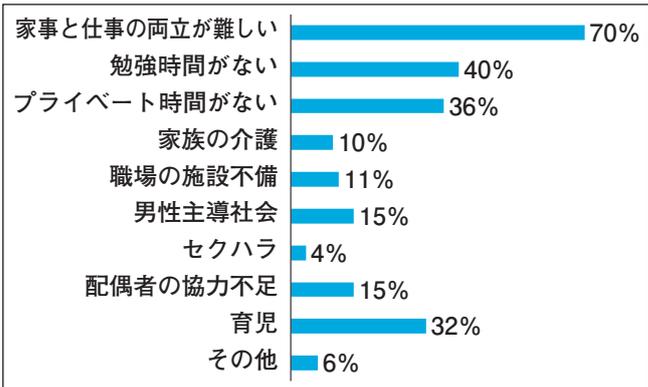


図8：女性歯科医師としての悩み(複数回答)

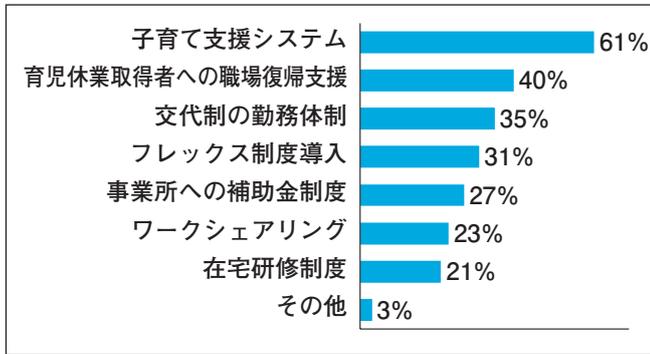


図9：仕事を続ける上で、あったら良いと思う制度や仕組みはありますか(複数回答)

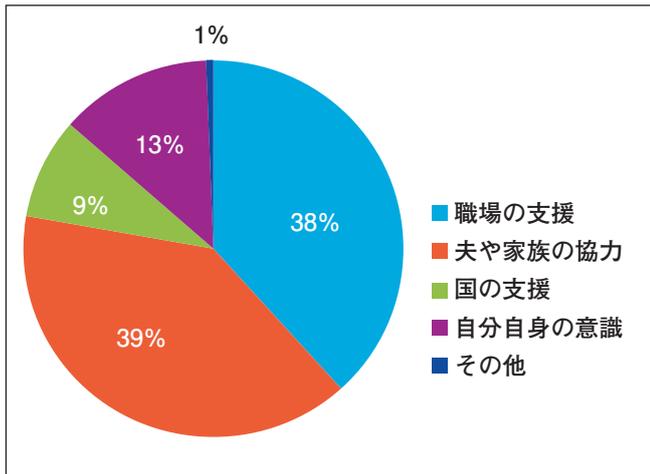


図10：女性が結婚出産後もこれまで通り仕事を続けるためには、何が一番必要だと思いますか



女性歯科医師  
アンケート調査を見て

会長 宮口 厳

現在、女性の社会進出が重要課題となり、アベノミクスが掲げる成長戦略にも挙げられています。近年の歯科大学入学の女性の割合も増加し、約4割を占めています。歯科医を目指す理由の一位が「女性も資格が必要」でした。女性の社会進出を国が掲げても、結婚・出産・育児等これまでの女性の役割を考えると果たして、歯科医としての働く環境が整っているかは、大きな課題と言えます。

今後、女性が社会で活躍することこそが、我が国の発展への道であると思います。本同窓会においても皆様方の現状を掴み、どのようなサポートが必要なのかを知るためにもアンケート調査を実施しました。

隠れた潜在力を発揮し、女性の皆様のライフワークが充実し満ちたものへとなることを祈念いたします。今回のアンケート調査にご協力頂いた女性同窓生の皆様に心よりお礼申し上げますと共に、このアンケート調査を行っていただいた本同窓会馬場篤子副会長に感謝申し上げます。

## 逝去のお知らせ

### 【大学関係】

特別会員 (元小児歯科学教授)

吉田 穰先生 平成26年2月3日逝去

### 【同窓生】

立石 光子先生 (2期、長崎県)  
平成26年8月3日逝去

富安 桂三先生 (8期、福岡県)  
平成26年6月24日逝去

小河 晶之先生 (19期、福岡県)  
平成26年6月19日逝去

近藤 賢司先生 (5期、大分県)  
平成26年6月14日逝去

豊 重広先生 (2期、大阪府)  
平成26年3月9日逝去

相澤 隆先生 (10期、宮崎県)  
平成26年2月1日逝去

## 同窓会通信「季節風」・同窓会誌「背振」

### 原稿募集

広報委員会では同窓会通信「季節風」・同窓会誌「背振」への皆様方の近況報告や学位取得された先生方の原稿を募集しております。また、各期等の周年記念事業などの開催の告知も掲載致しますのでお申し出ください。

### 福岡歯科大学同窓会事務局

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1

Tel 092-863-2966 / Fax 092-863-2967

dousoukai@college.fdcnet.ac.jp